

木部

公共仕様
DNT-新設・11-1-02

18章11節:ウレタン樹脂ワニス塗り(UC) 外部用ウレタンクリヤー

使用材料一覧表

規格 一般名称	商品名	ホルムアルデヒド 放散等級	希釈剤
1 JASS 18 M-301 1液形油変性ポリウレタンワニス	外部用ウレタンクリヤー	-	塗料用シンナー

塗装仕様

表18.2.1 木部の素地ごしらえ [B種]

工程	塗料その他			面の処理
	規格番号	規格名称	種類	
1 汚れ、付着物除去	-	-	-	木部を傷つけないように除去し、油類は、溶剤等でふき取る。
2 やに処理	-	-	-	やには、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。
3 研磨紙すり	-	研磨紙P120～220	-	かなな目、逆目、けば等を研磨する。

(注) ラワン、しおじ等の場合は、必要に応じて、工程2ののちに目止め処理を行う。

表18.11.1 ウレタン樹脂ワニス塗り [B種]

工程	商品名	色相	混合比率 (重量比)	希釈率(% (重量比)	塗装方法	塗付け量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (20)
1 下塗り	外部用ウレタン クリヤー	透明	-	10～15	刷毛 ローラー	0.05	8時間以上 1ヶ月以内
				15～20	スプレー		
2 上塗り	外部用ウレタン クリヤー	透明	-	10～15	刷毛 ローラー	0.05	-
				15～20	スプレー		

(注) 1.素地ごしらえの種類は、塗料その他の欄による。
2.一般木部及びフローリングは、1液形とする。
3.JASS 18 M-301は、日本建築学会材料規格である。

18.2.2 木部の素地ごしらえ

- (a)木部の素地ごしらえは表18.2.1により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合はA種、透明塗料塗りの場合はB種とする。
(b)透明塗料塗りの素地ごしらえは、必要に応じて、表18.2.1の工程を行ったのち、次の工程を行う。
(1)着色顔料を用いて着色兼用目止めをする場合は、はけ、へら等を用いて、着色顔料が塗面の木目に十分充填するように塗り付け、へら、乾いた布等で、色が均一になるように余分な顔料をきれいにふき取る。
(2)着色剤を用いて着色する場合は、はけ等で色むらの出ないように塗り、塗り面の状態を見計らい、乾いた布でふき取って、色が均一になるようにする。
(3)素地面に、仕上げに支障のあるおそれがある甚だしい色むら、汚れ、変色等がある場合は、漂白剤を用いて修正する。

18.11.2 ウレタン樹脂ワニス塗り

ウレタン樹脂ワニス塗りは表18.11.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

注意事項

- * 上記塗付け量は国土交通省 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成22年版に掲載されている数値です。
そのため実際の塗付け量は被塗物の形状や、塗装方法、環境によって増減することがあります。
* 商品の詳細、塗装上の注意事項につきましては、カタログ、単品説明書などを参照ください。

木部

公共仕様
DNT-新設・11-2-02

18章11節:ウレタン樹脂ワニス塗り(UC) VトップクリヤーDX

使用材料一覧表

規格 一般名称	商品名	ホルムアルデヒド 放散等級	希釈剤
1 JASS 18 M-502 2液形ポリウレタンワニス	VトップクリヤーDX	F	Vトップシンナー

塗装仕様

表18.2.1 木部の素地ごしらえ [B種]

工程	塗料その他			面の処理
	規格番号	規格名称	種類	
1 汚れ、付着物除去		-		木部を傷つけないように除去し、油類は、溶剤等でふき取る。
2 やに処理		-		やには、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。
3 研磨紙すり		研磨紙P120～220		かなな目、逆目、けば等を研磨する。

(注) ラワン、しおじ等の場合は、必要に応じて、工程2ののちに目止め処理を行う。

表18.11.1 ウレタン樹脂ワニス塗り [B種]

工程	商品名	色相	混合比率 (重量比)	希釈率(%) (重量比)	塗装方法	塗付け量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (20)
1 下塗り	Vトップ クリヤーDX	透明	主剤80: 硬化剤20	5～10	刷毛	0.06	12時間以上
				30～50	スプレー		
2 上塗り	Vトップ クリヤーDX	透明	主剤80: 硬化剤20	5～10	刷毛	0.06	-
				30～50	スプレー		

(注) 1.素地ごしらえの種類は、塗料その他の欄による。
2.一般木部及びフローリングは、1液形とする。
3.JASS 18 M-502は、日本建築学会材料規格である。

18.2.2 木部の素地ごしらえ

- (a)木部の素地ごしらえは表18.2.1により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合はA種、透明塗料塗りの場合はB種とする。
(b)透明塗料塗りの素地ごしらえは、必要に応じて、表18.2.1の工程を行ったのち、次の工程を行う。
(1)着色顔料を用いて着色兼用目止めをする場合は、はけ、へら等を用いて、着色顔料が塗面の木目に十分充填するように塗り付け、へら、乾いた布等で、色が均一になるように余分な顔料をきれいにふき取る。
(2)着色剤を用いて着色する場合は、はけ等で色むらの出ないように塗り、塗り面の状態を見計らい、乾いた布でふき取って、色が均一になるようにする。
(3)素地面に、仕上げに支障のあるおそれがある甚だしい色むら、汚れ、変色等がある場合は、漂白剤を用いて修正する。

18.11.2 ウレタン樹脂ワニス塗り

ウレタン樹脂ワニス塗りは表18.11.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

注意事項

- * 上記塗付け量は国土交通省 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成22年版に掲載されている数値です。
そのため実際の塗付け量は被塗物の形状や、塗装方法、環境によって増減することがあります。
* 商品の詳細、塗装上の注意事項につきましては、カタログ、単品説明書などを参照ください。